

## 第2回臨時会

(会期：令和元年10月23日)

# 議決した案件

●決算案…3件

(●賛成多数可決…3件)

Pick Up

## 平成30年度決算を認定

一般会計の歳入歳出

収入済額	81億9,385万8千円	(前年度比9.5%増)
支出済額	76億2,028万4千円	(前年度比5.4%増)

### 平成30年度の主要な施策の成果（新規事業）

- 1 個の力が発揮でき、人の力で発展していくまち—人づくり—
  - 小中学校一体型施設の整備 【1,099万円】  
福富・河内小中一体型施設の設計
  - 学校の環境改善 【1億3,313万円】  
トイレ洋式化、空調設置
- 2 安全で安心な暮らしを地域で支えあうまち—安心づくり—
  - 保育の受け皿確保対策 【9億5,412万円】  
私立保育所等の定員拡充、円城寺保育所の移転民営化など
- 3 環境と調和した生活しやすいまち—快適づくり—
  - 新美術館等の整備 【9億30万円】  
美術館の建築、西条中央公園整備
- 4 交流が盛んなにぎわいのあるまち—活力づくり—
  - 移住・定住の促進 【1,328万円】  
移住者の創業等の支援
- 5 新たな発想を活かした自立と協働のまち—自立のまちづくり—
  - 電算処理システムの管理運営 【774万円】  
高度情報分析の推進、事務自動化の推進など

### 財政力は？

財政力指数 **0.83**  
 数値が高いほど自主財源が高く、財政力が強い。  
 H29年度は0.83

### 余力は？

経常収支比率 **87.6%**  
 数値が高いほど財政状況が悪い。  
 H29年度は89.9%

### 借入金の負担度は？

実質公債費比率 **0.3%**  
 25.0%以上は財政健全化計画を策定しなければなりません。

市の財政状況は？



# 本会議の討論

## 議案の審査経過 表決が分かれた案件の表決結果

議案番号▶	議員名	議案第197号	議案第198号	議案第199号
創生会	片山 貴志	○	○	○
	岩崎 和仁	○	○	○
	坪井 浩一	○	○	○
	加藤 祥一	○	○	○
	鈴木 利宏	○	○	○
清新の会	貞岩 敬	○	○	○
	北林 光昭	○	○	○
	重森佳代子	○	○	○
	乗越 耕司	議	議	議
	池田 隆興	○	○	○
創志会	岡田 育三	○	○	○
	大道 博夫	○	○	○
	玉川 雅彦	○	○	○
	奥谷 求	○	○	○
公明党	坂元百合子	○	○	○
	加根 佳基	○	○	○
	竹川 秀明	○	○	○
令和会	鈴木 英士	○	○	○
	牛尾 容子	○	○	○
	田坂 武文	○	○	○
市民クラブ	景山 浩	○	○	○
	中川 修	○	○	○
	石原 賢治	○	○	○
政友会	重光 秋治	○	○	○
	山下 守	○	○	○
	牧尾 良二	○	○	○
日本共産党	谷 晴美	×	×	×
真政倶楽部	宮川 誠子	○	○	○
広友会	上田 廣	○	○	○
街おこしめざす会	大谷 忠幸	欠	欠	欠

※「議」は議長 ○は賛成「×」は反対「欠」は欠席

●議案第197～199号(平成30年度東広島市歳入歳出決算の認定について、平成30年度東広島市水道事業会計利益の処分及び決算の認定について、平成30年度東広島市下水道事業会計決算の認定について)

### 反対 谷 晴美議員

貧富の格差が広がっている中、消費税10%の増税に伴う使用料の値上げは市民生活をないがしるにした手法である。消費税増税に反対し、中小規模事業者に寄り添い、市民生活を温めるよ

う導くべき。  
市民からの要望の上位に挙げられている子どもの医療費負担軽減のほか、給食費の無償化、公共交通の負担軽減など、市民が税の恩恵を感じられるよう、財政調整基金を取り崩し活用すべき。

環境政策について、事業系ごみは事業者の責任で処理すべきであり、処理しきれないごみは手数料を徴収するなど、きつぱりとしたスタンスに立ち返り、市民生活に影響の無いように指導を行うべき。

水道事業は広域化について検討しているが、広島県は※コンセッション方式を採用しており、災害時における迅速な公的対応の重要性を市民が実感している中、受託業者が災害時のリスクを契約上回避できるようにしていることは問題。これらの理由から反対する。

### 賛成 景山 浩議員

平成30年度予算は市長選挙に伴い、経常的経費の骨格予算、政策的経費の肉付け予算を編成した。また昨年7月の豪雨災害以降は、災害復旧に関する予算執行があったが、これらを適切

に運営していたことは、監査委員からの報告でも明らかである。議会の責務としては、現年度の予算執行、来年度の予算編成、第五次総合計画など、これからの議論に傾注することだと考える。平成30年度決算を認定し、住みたいと思われまちづくりに取り組むことが私たちの責務と考え、賛成する。

